●ひとづくり・まちづくりの拠点として

ひとづくりやまちづくりを醸成する拠点を創 ることと同意であると考えます。 水戸及びその周辺地域には歴史の中で育 まれてきた文化があり、歴史的資産があり、 豊かな水や緑があり、独特の習慣がありま す。これら水戸の誇れる資産を生かしなが ら、情報発信の場、芸術文化活動の創造 の場、そして人が集い躍動する交流の場

など多様な営みを一つにつなぐ施設づくりを

提案したいと考えます。

私たちは新しい市民会館を創ることは、

市民会館、水戸芸術館、京成百貨店を 一体的にとらえ、人々の交流や賑わいの 核とし、点在するまちの機能をつなぎます。 中心市街地では賑わいの反面、自家用車 の利用による交通障害が発生するおそれ があります。 公共交通の利用と、 徒歩や 自転車を主体とした回遊性のある道の整備 を進め、安心で住みよいまちを目指します。





●まちに活気をもたらす通りの活用

○道路空間を使った賑わいの創出(水戸市民の気質を踏まえた計画)

水戸市民は表で商いをしたり、表の賑わいを求めたりする気質を 持ちます。今計画地は、敷地面積があまり大きくなく四方接道し ていることが特徴です。 市民が日常的に利用できる憩いの場とし て、敷地の四隅に空間を設け、市民会館のにわとしました。また、 道路占用許可の特例制度を活用して、道路空間を一体的に使っ たひろばを提案します。 暮らしの潤いを市民会館沿いの通りから



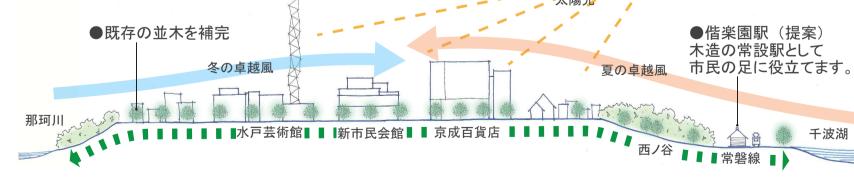




▲施設間の連携を強めるひろば ▲にわ・ひろばを通じてまちへの回遊性を高めます。

○クリーン度の高いまちづくり

地方都市の魅力は人の賑わいとともに、自然を活かした環境保全がされたまちであることです。 水と緑あふれる偕楽園公園から、中心市街地を通って清流那珂川に至る緑のみちをつなぎま す。 水戸独特の卓越風を通し、 市街地によって分断された緑を補完しながら、 人や自然を街 に導き街全体の一体化を図ります。 CO2削減や温暖化対策にもつながり、 小鳥が飛び交うク リーン度の高いまちとなります。



○彰往考来の精神を生かしたまちの修景計画

|なかの雇用を生みます。

●緑地率の向上

町毎に色を変えた シェアオフィス等としてまち

水府提灯で夜も明

るく安心して歩ける

道となります。

水戸の中心市街地は、昭和 20 年の水戸大空襲の復興の中で、現在の街並みの礎が築か れました。 私たちは彰往考来の精神によって既存を生かしながら、 文化や歴史を伴った統一

●市民会館の外観

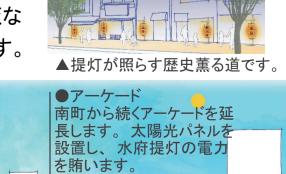
まちに溶け込む開放

的な外観とします。

ボリュームを抑え、

された点景によってこの地だからこそ出来るまちづくりを考えました。

水戸のまちは、高さや構造の異なった建物が軒を連ねる街道が特徴 です。まち全体の独特なバランスを保ちながら、水府提灯や看板な どの点景による修景計画を基本としたリデザインをしたいと思います。

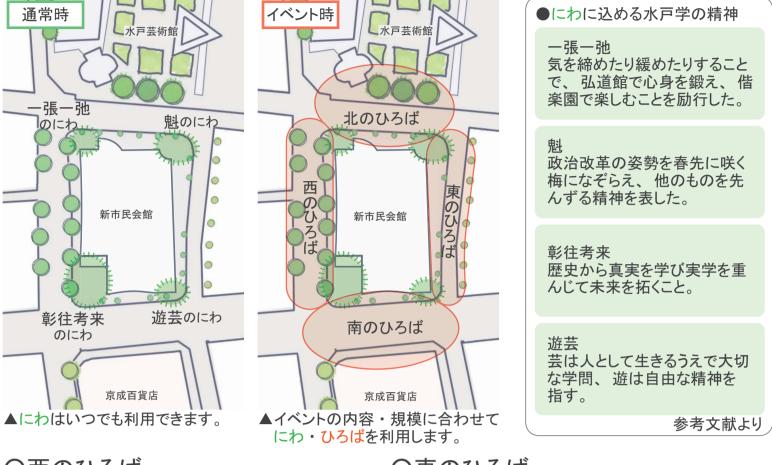


●にわとひろばの一体的な利用

まちの賑わいを生み出し市民活動の幅を広げるにわとひろばを創出します。

敷地の四隅には水戸の文化を育んできた水戸学の精神をもつにわを設けます。 人や 緑を一体的につなげ、待ち合わせや休憩、軽食など気軽に利用できる憩いの空間と して日常的に賑わいます。また、にわには思想や性格にあわせ、四季を感じられる 植栽を施します。季節ごとに彩られるにわの表情を楽しみます。

ひろばは主にまちでのイベント時に利用し、道路空間と一体化した、まちを巻き込んだ 賑わい空間です。イベントにあわせて歩行者天国やまちなかステージに使われます。



〇西のひろば

並木道となった歩道にマルシェやオープン カフェが並ぶ日常的に賑やかなひろばで す。ビストロチェアに腰かけ談笑や飲食、 読書などを楽しむことが出来ます。

●既存施設との連携

●地下通路の通り抜け

などを行います。

京成百貨店

〇未利用地の活用

まちなかに点在する空き地には木や芝

を植えて緑地率の向上を図ります。 緑

の交流拠点とし休憩所やサイクルステー

ション、災害時の避難場所等になり、

まちでの暮らしに潤いを与えます。

壁面は地下ギャラリーとし

て情報発信や作品の展示

▲地下ギャラリーのイメージ

3つの施設が連携し、中心市街地のパワーアップ化を図ります。

遊芸のにわと一体的に水戸や周

辺地域に残る伝統芸能の披露や

お囃子やブラスバンドなど印象的 な音でにぎわいを創出します。

ミニイベントを行います。

地下連絡通路

○東のひろば

閉鎖的になりがちな壁面を印象的なアート によって盛り上げるひろばです。 地元アーティストによる展示即売会など、 活発な市民活動が行われます



水戸芸術館、京成百貨店をにわ・ひろばによって催し物や行事を盛り上げ、施設を有機的につなぎます。

ホワイエ

ホワイエ

地下駐車場

雨水貯留槽

▲緑地率の向上により生まれた憩し の場は人が集まる楽しい場所です

憩いの場を提供すると

●大ホールの座席

舞台への良好な視線と豊

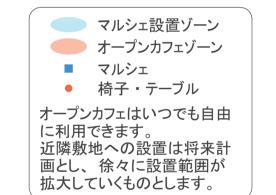
かな音響を確保するため、

3層形式を採用します。

機械室







フライタワーを建物中央に配置し

展示ホール

会議室

会議室

楽屋関連諸室

楽屋

まちへの圧迫感を軽減します。

●空調計画

居住域空調を 採用し、客席

の位置に関わ

らず快適な室

温環境を創出

します。

機械室

●ハード面において重要視する点

施設は質実かつ機能的であることを基本とします。

・既存建物の解体に伴う資材のリサイクル化

○安全性・経済性・機能性に配慮した構造計画

・PCaPC 造とPCa 造の組合せで低コスト、工期短縮を実現

大規模天井、設備など非構造部材の耐震性能の確保

オーケストラ ヒ゜ット

高性能柱頭免震構造の導入

新市民会館

●一張一弛のにわ

格式のある水戸芸術館と親しみ

やすく自由な市民会館を結ぶにれ

です。風除室は杉山門をモチー

フとし、冬でも艶のある緑の葉を

にわ

風除室

ラウンジ

茂らせる常緑樹を植えます。

西のひろば

市民が工夫し

居心地の良い

りです。市民

の手によって

賑わいを生み

出します。

●彰往者来のにわ

戸の未来へつなぎます。

をもたらします。

イベント時には広さを活かし

水戸城址の薬医門がモチーフの

エントランスをくぐり、 新しい出会

いや発見がある市民会館へ導く

にわです。彰往考来の精神を水

車や神輿、テント等を並べられる

夏には広葉樹によりまちに緑と涼

お祭りのにわとして機能します。

空間をつくる通



北のひろば

🌳 北のテラス

●演劇やコンベンション等に利用し

ます。開放することで、北のテラス

と連携した展示即売会や市民演劇

を行うなど活動の幅が広がります。

楽屋(大)

●市民の交流・憩し

の場には水戸の文

- 化や歴史、情報を

発信する機能を持

ち合わせます。

総合案内

南のひろば

大きさの異なる会議室に稼働間仕

切りを備え、会議や研修会、学生

の学習スペースなどフレキシブルな

●多機能ホール

対応が可能です。

スカイレストラン

会議室

多機能ホール

風除室

彰往考来のにわ

多機能ホール

北のテラスから芸術館ひろばまで

出演者のニーズに応

ます。

主舞台

大ホール1階席

地場産材を使い柔らかみ

のあるホールとし、豊か

な音響環境を創出します。

●床を敷地の勾配に

合わせたスロープにす

ることで段差を無くし、

通り抜けやすくします。

↑●市民交流ラウンジとの

往来が可能です。

京成百貨店のひろばと連携し、商いによる賑

機械室

●大ホール

える多様な楽屋を備え

上手側舞台

まち舞台

遊芸のにわ

現代美術などを扱う最先端を行[、]

魁のにわ

◀ 楽屋口

●バックヤード

東のひろば

まち舞台と一体的に様々な

わです。 紅葉の美しい樹種

により秋のまちを彩ります。

バックヤードが集まる裏通り

に楽しさを創出します。

の性格が出やすいことを利用

壁面アートなど壁でまち

大ホール

多機能ホール

| 交流 (ホワイエ含)

商業施設

管理運営

楽屋·

※にわ

^一 バックヤード等

፞፞ቑቜቜቜ

┦機械室 性に配慮し、 ゆとりある搬

___入スペースを確保します。

ホールの同一階に設け利便

多動観覧席

パントリー

搬入スペース

収納庫

水戸芸術館に向かったにわです。

には梅が薫るにわとなります。

一体的な利用が可能です。





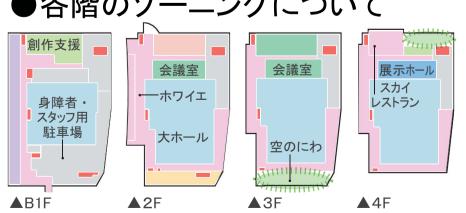
の伝統芸能の継承の場として、 🦝 まち舞台での披露を行います。 まち舞台はブラスバンドやまちの ミュージシャンの発表の場としても

利用されます。 彰往考来のにわでは、水戸城

址の薬医門を模したエントランスを 設けます。まちとの境界を意識 ▲水戸城址の薬医 し、新しい出会いがある市民会 館へ向かう心を整えます。

> 一張一弛のにわでは水戸城址の 北門であった杉山門を模した風 除室により芸術館へ誘います。

●各階のゾーニングについて



○省エネ、創エネの工夫

災害時には市民交流ラウンジとあわせ

て防災拠点とし、2次避難場所、支

援物資の供給等の役割を担います。

北のカフェのオープンテラス

や多機能ホールと連携した

利用が可能です。

幹線市道4号約

- 自然力を活かした省エネルギー効果によりLCCを削減 (地中熱利用空調熱源、太陽光発電、雨水·井水利用等)
- を採用し、 快適性と省エネルギー性を確立
- ・地域の自然環境を活かした CASBEE への配慮設計

水戸芸術館

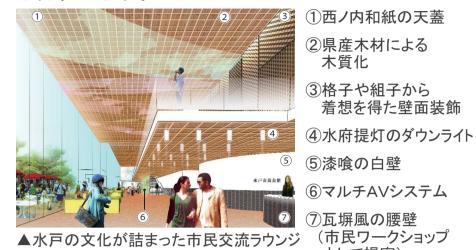
- ・大ホールには居住域空調(空調機+床輻射冷暖房方式)
- ・カフェやレストランの残菜を有機肥料化し施設内緑地に利用

●伝統文化の継承・保存について

〇二つの役割を担う市民交流ラウンジ ▲冬に行われる 300 人の《第九》 市民交流ラウンジは、いつでも人が集い、まちと

つながる生き生きとした開かれた空間です。

県産材や伝統技法を用いて構成されたこの空間は 人々の交流の場であり、水戸の伝統や歴史的な 魅力を発信する「市民ミュージアム」の側面を持 ち合わせます。



②県産木材による ③格子や組子から 着想を得た壁面装飾

のマルチAVシステム

S - 012

(市民ワークショップ は多くの人で賑わいます。

通り側の壁面はシースルーとし、マルチAVシス テムの映像によって、来訪者だけでなく通りを歩く 人へも様々な情報を発信します。中の様子を見ら れることで市民会館へ親近感を抱き、通り抜けや 休憩・談笑などの気軽な利用を促進します。 また、床を緩やかな敷地の勾配に沿わせること で、階段のないスムーズな移動を可能とします。



としてガラス面を通して内外に情報を発信します

○市民とつくる瓦塀の復元ワークショップ

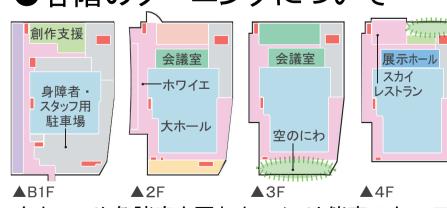


代に復元します。 市民交流ラウ ンジや内外の腰部に、震災に よって落下した弘道館の瓦(江 戸時代のもの)を活用します。

水戸城址より出土した瓦塀を現

〇にわを使った歴史の継承 🎎 遊芸のにわでは水戸や周辺地域





大ホールや各諸室を囲むホワイエは催事のない日 でも開放し、いつでも自由に使える空間とします。 会館全体が市民のためのサードプレイスとなります。

○誰もが利用しやすい施設の構想

- ・敷地の勾配に床のレベルを合わせた市民交流ラウンジ
- ゆとりある通路幅と滑りにくい床仕上げによる安全動線
- ・水戸らしい色を用いた、カラーによる明確なサイン計画
- 無料域や創作支援部門の充実を図りサードプレイスを創出
- ・避難経路の多岐化により安全を確保

・各諸室をつなぐホワイエにより柔軟で多彩な活動が可能